

ホンシメジ発生地の地形、植生等に関する調査 林地栽培に向けた生育環境の把握と菌株の収集

1 はじめに

ホンシメジは菌根性の食用きのこであり、人工的な栽培が難しいとされてきたが、近年、菌床から子実体を発生させることが可能となった。当センターでは、簡易的な栽培方法として、林地での菌床の埋設によるホンシメジの栽培を目的に研究を進めている。しかし、同じホンシメジでも系統により栽培条件が異なるため(成果速報128, 163)、系統毎の特性の把握が必要となる。今回は、その特性に影響を及ぼすと考えられる、ホンシメジ発生林の地形、植生等の生育環境について調査を行い、併せて菌株を収集した。

2 方法

調査期間と菌株の収集

平成11年, 16年, 17年の10月に、県内8箇所(4市3町1村)の森林でホンシメジの子実体を採取した。子実体からは菌糸を分離し、暫定的に菌株番号を付した。

生育環境の調査

子実体を採取した森林(採取林)で、以下の項目を調査した。

地形: 標高, 斜面方位, 傾斜, 地形区分, 落葉層と腐植層(A₀層)の厚さ

植生: 高木層と低木層の構成種(ホンシメジ発生地点を中心とする, 半径5mの円内を調査の対象範囲とした)

菌類: 発生地点付近での菌根性きのこの類の発生状況



ホンシメジの子実体 (Ls04-2)

3 結果

菌株の収集: 発生林で採取した子実体(写真)から、延べ10個の菌株が得られた。

地形(表, 以下同): 発生地点は標高が海拔91~850mの斜面上部や尾根に位置し、斜面の向きは南東から西向きであった。斜面の傾斜は0~42°で、うち3箇所は30°以上の急な斜面であった。A₀層の厚さは5cm未満で、うち3箇所は1cm未満であった。

植生: 高木層の優占種は発生林により異なり、8箇所のうち3箇所がアカマツ、3箇所がコナラ、2箇所がそれらの混交であった。また、低木層ではマルバアオダモ、ツツジ類が優占した。

菌類: 発生地点の周辺で認められた菌根性きのこの種類は、高木層の優占種によって異なった。アカマツ林ではマツタケ、アミタケやヌメリイグチ、コナラ林ではシャカシメジ、シモフリシメジが認められた。

以上の結果から、県内のホンシメジ発生林の環境は多様であることが明らかになった。

4 成果の活用

得られた菌株の特性を把握し、林地での栽培適性について検討を行う。

表. ホンシメジの生育環境

菌株番号	採取場所	地形				A ₀ 層厚さ (cm)	植生 (高木層優占種)	菌類*
		標高 (m)	地形区分	斜面方位	斜面傾斜 (°)			
Ls11-2	花巻市	-	斜面下部	南	0	-	アカマツ	(シイタケホダ場)
Ls04-1	葛巻町	850	斜面上部	西	20	5	アカマツ, ミズナラ	シモ, ヌメリ
Ls04-2,4	大船渡市	500	斜面上部	南東	42	0	コナラ	ヌメリ
Ls04-3	大船渡市	500	斜面上部	南東	35	0	アカマツ	ヌメリ
Ls04-5,6	岩手町	330	尾根	南	0	5	コナラ	シャカ
Ls04-7	岩泉町	678	斜面上部	南東	33	3.5	コナラ	シモ, シャカ
Ls04-10	宮古市	91	尾根	西	0	1	アカマツ	アミ, ヌメリ, クロ
Ls05-1	山形村	377	斜面上部	南西	18	3	アカマツ, コナラ	マツ, アミ, コウ

* シモ:シモフリシメジ, シャカ:シャカシメジ, マツ:マツタケ, ヌメリ:ヌメリイグチ, アミ:アミタケ, クロ:クロカワ, コウ:コウタケ
(担当者 林産利用部 主任専門研究員 成松 眞樹)

連絡先	028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11 岩手県林業技術センター ホームページアドレス http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/	TEL 019-697-1536 FAX 019-697-1410
-----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------